

# 第50期決算説明会資料

(平成17年10月1日～平成18年9月30日)

平成18年12月6日(水)

日本フォームサービス株式会社

(証券コード: JASDAQ7869)



# 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	第50期末		第49期末	
	平成18年9月30日現在		平成17年9月30日現在	
	金額	構成比	金額	構成比
流動資産	1,094.7	25.2	734.5	18.2
固定資産	3,245.0	74.8	3,294.1	81.8
資産合計	4,339.7	100.0	4,028.7	100.0

流動負債	935.4	21.6	750.9	18.6
固定負債	598.7	13.8	592.2	14.7
負債合計	1,534.1	35.4	1,343.1	33.3
純資産合計	2,805.6	64.6	2,685.5	66.7
負債純資産合計	4,339.7	100.0	4,028.7	100.0

(注) 小数点第2位以下切捨て

# 連結損益計算書

(単位:百万円)

	第50期会計年度 自 平成17年10月1日 至 平成18年9月31日		第49期会計年度 自 平成16年10月1日 至 平成17年9月31日	
	金額	百分比	金額	百分比
売上高	3,252.9	100.0	2,664.9	100.0
売上原価	2,233.2	68.7	1,863.1	69.9
売上総利益	1,019.7	31.4	801.8	30.1
販売費及び一般管理費	776.8	23.9	762.9	28.6
営業利益	242.8	7.5	38.9	1.5
営業外収益	12.7	0.4	22.3	0.8
営業外費用	18.0	0.6	22.4	0.8
経常利益	237.4	7.3	38.8	1.5
特別利益	40.6	1.2	213.6	8.0
特別損失	42.6	1.3	165.2	6.2
税金等調整前当期純利益	235.4	7.2	87.2	3.3
法人税、住民税及び事業税	130.9		21.7	
法人税等調整額	29.3		12.8	
当期純利益	133.8	4.1	52.6	2.0

(注)小数点第2位以下切捨て

## 財政状況の概要(連結)

主な増減要因

(単位:千円)

### 【流動資産】

	50期	49期	増減
現金及び預金	146,295	81,637	64,658
売掛金	772,739	498,553	274,186
たな卸資産	131,131	125,893	5,238

### 【固定資産】

	50期	49期	増減
有形固定資産	3,149,714	3,116,048	33,666
投資有価証券	22,381	118,408	96,027

### 【流動負債】

	50期	49期	増減
短期借入金	185,000	235,000	50,000
1年内長期借入金	125,277	147,478	22,201

### 【固定負債】

	50期	49期	増減
長期借入金	474,842	491,819	16,977

# 貸借対照表(日本フォームサービス株)個別

(単位:百万円)

	第50期末		第49期末	
	平成18年9月30日現在		平成17年9月30日現在	
	金額	構成比	金額	構成比
流動資産	1,033.2	23.9	715.4	17.6
固定資産	3,287.2	76.1	3,341.3	82.4
資産合計	4,320.4	100.0	4,056.7	100.0

流動負債	932.0	21.6	758.9	18.7
固定負債	598.7	13.8	592.2	14.6
負債合計	1,530.8	35.4	1,351.1	33.3
純資産合計	2,789.6	64.6	2,705.5	66.7
負債純資産合計	4,320.4	100.0	4,056.7	100.0

(注)小数点第2位以下切捨て

# 損益計算書(日本フォームサービス株)個別

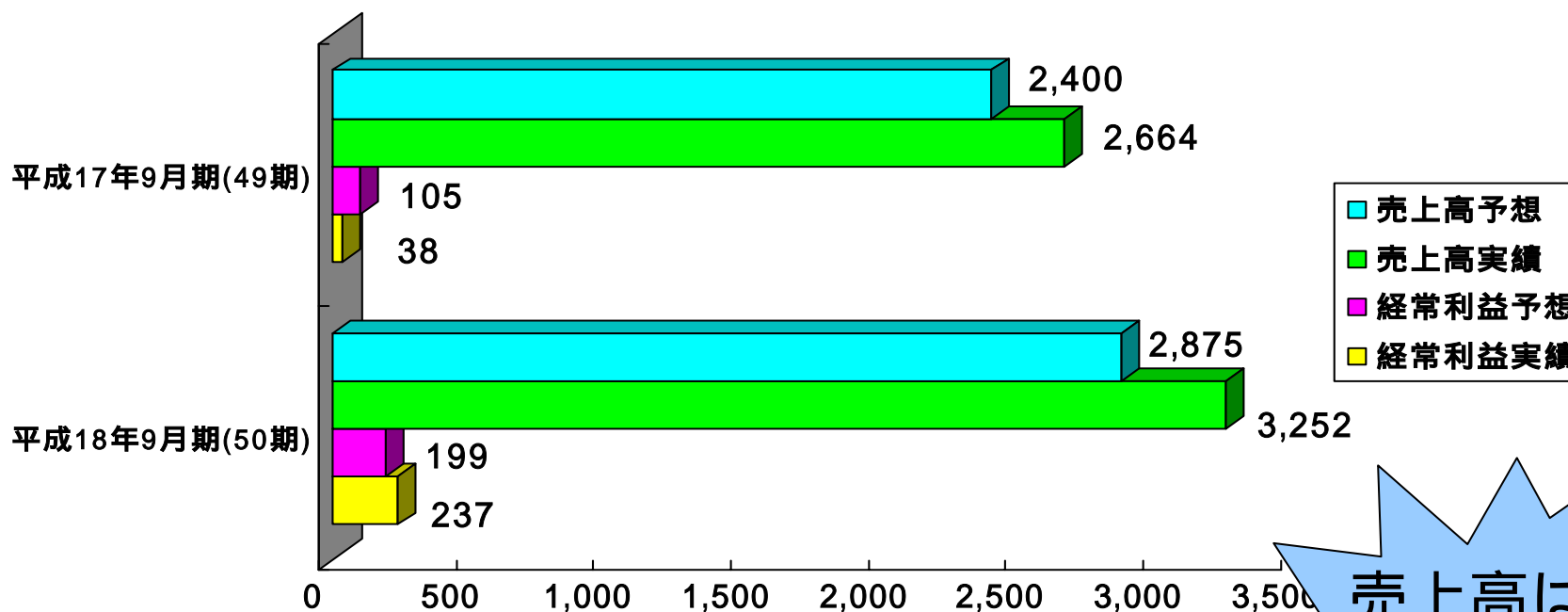
(単位:百万円)

	第50期会計年度 自 平成17年10月1日 至 平成18年9月31日		第49期会計年度 自 平成16年10月1日 至 平成17年9月31日	
	金額	百分比	金額	百分比
売上高	3,252.9	100.0	2,664.6	100.0
売上原価	2,320.5	71.3	1,915.3	71.9
売上総利益	932.3	28.7	749.3	28.1
販売費及び一般管理費	738.0	22.7	725.9	27.2
営業利益	194.2	6.0	23.4	0.9
営業外収益	11.0	0.4	17.3	0.6
営業外費用	18.0	0.6	22.4	0.8
経常利益	187.2	5.8	18.3	0.7
特別利益	40.6	1.2	213.6	8.0
特別損失	42.6	1.3	165.2	6.2
税引前当期純利益	185.2	5.7	66.7	2.5
法人税、住民税及び事業税	113.4		21.5	
法人税等調整額	26.0		12.8	
当期純利益	97.8	3.0	32.3	1.2

(注)小数点第2位以下切捨て

# 連結業績推移

(単位=百万円)

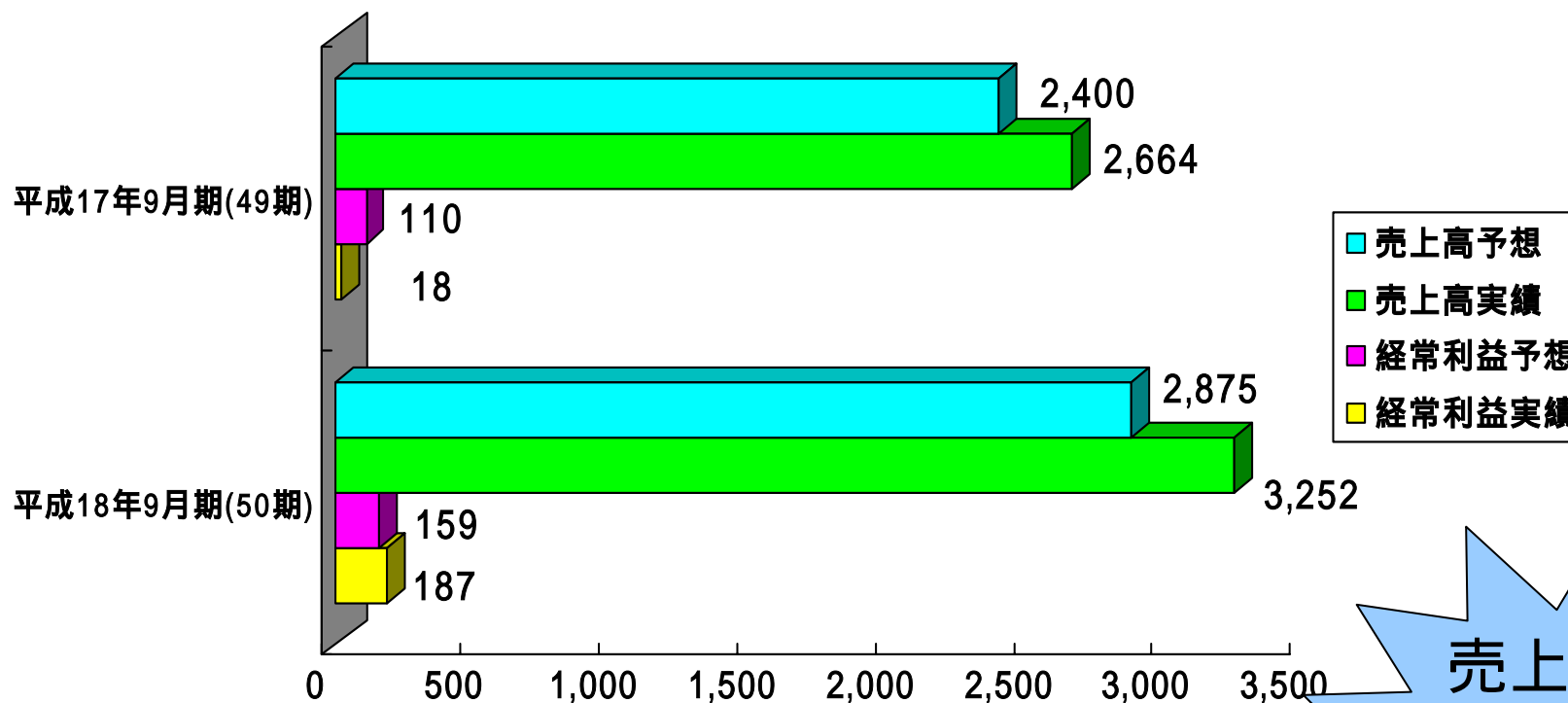


売上高は  
過去最高

# 個別業績推移

【親会社 日本フォームサービス株式会社】

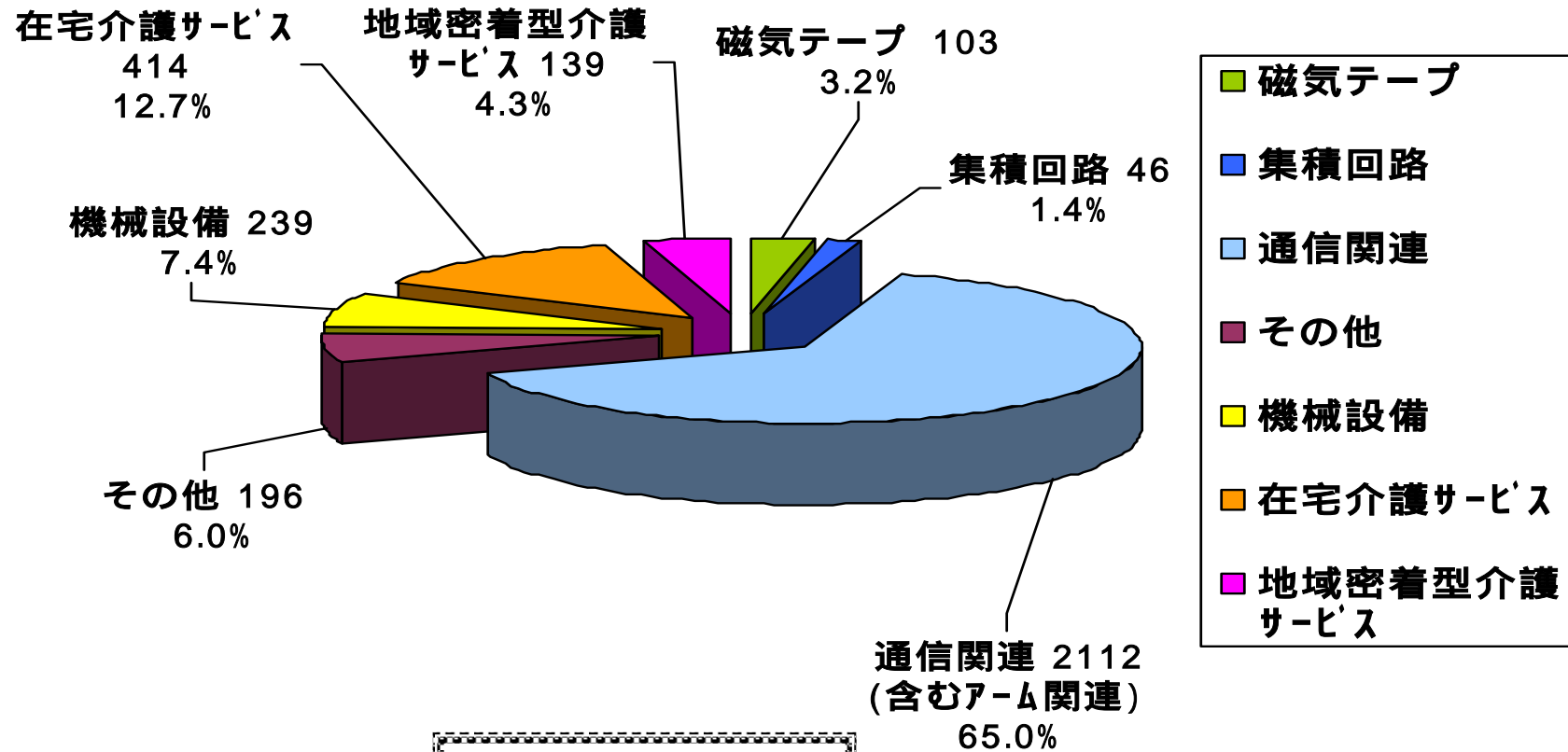
(単位=百万円)



売上高は  
過去最高

# 第50期セグメント別売上高(連結)

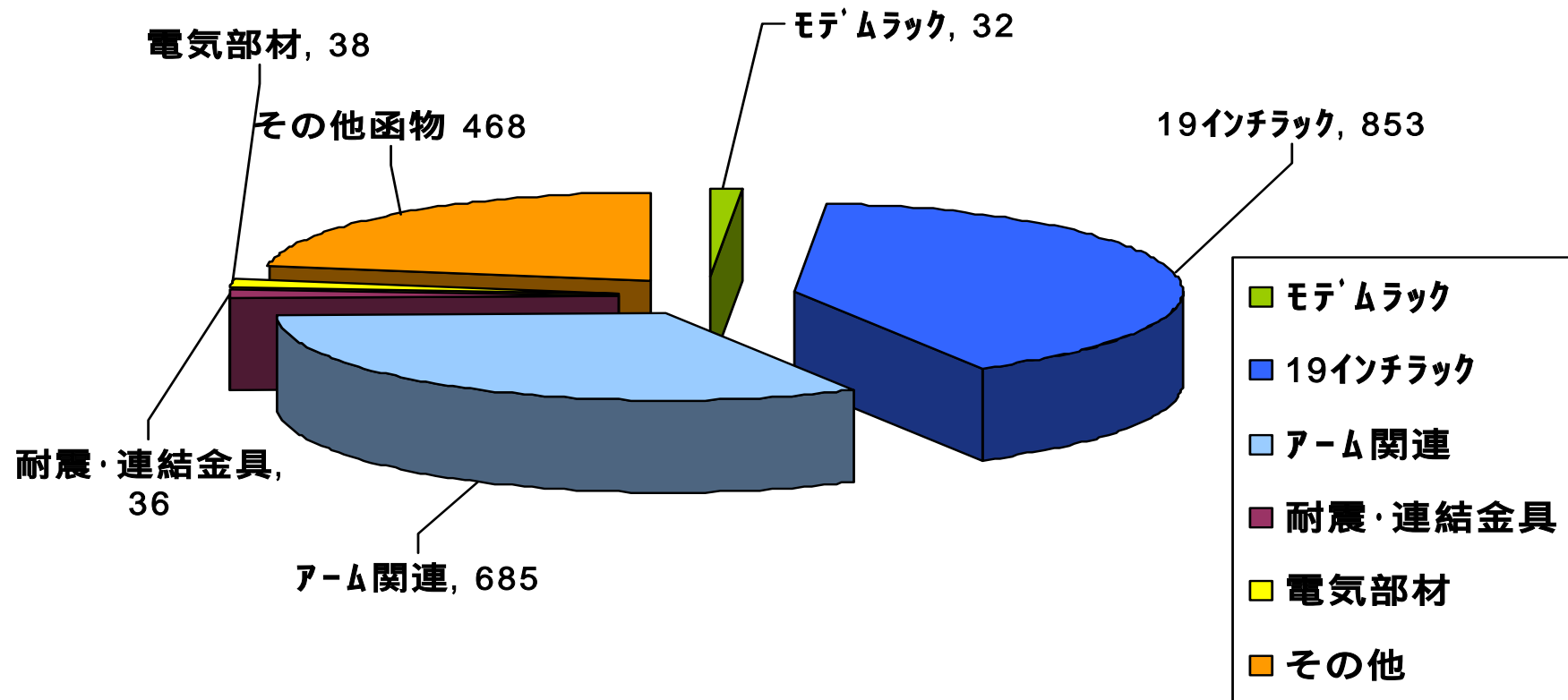
(単位:百万円)



第50期売上高  
売上高 3,252百万円

# 第50期セグメント別売上高(連結) (通信関連の詳細)

(単位=百万円)



## 【第50期予想と実績(連結)】

【売上高】

(単位=百万円)

	中間時予想	実績	予実差
全社計	2,875	3,252	377
メーカ一部門	2,345	2,698	353
介護事業部	530	554	24

【営業利益】

	中間時予想	実績	予実差
全社計	199	242	43
メーカ一部門	235	261	26
介護事業部	36	19	17

## 【 検 証 （ 業 績 ）】

- ・ソリューション1部 …… アーム関連

  - フォービステクノ(株)を含め大幅な増益

  - 完全に時流に乗った製品(液晶・プラズマ関連)

- ・ソリューション2部 …… ラック関連

  - 大口の受注の獲得、受注額に対して約3億円程(しかし一過性のもの)。

- ・四国営業所

  - 営業所に関しては、市場に対して製品が無い。

  - 地方に対しての要望される製品が少ない。

## 【 検 証 （ 業 績 ）】

### ・特機部

予定通りの実績であった。

地方の県立病院の大口物件では、当初の予想していた原価が大幅に増えてしまった。

### ・千葉工場

設計・開発の労務費、製造経費の算入で原価が大きくアップした。

また、材料の高騰に対して原価のアップ率が低く抑えられた。

工場が大きく利益を取れる製品に恵まれていない。

## 【 検 証 （ 業 績 ）】

### ・介護関連事業部(在宅介護サービス)

営業活動が不十分であり、その結果、十分な顧客確保ができなかった。

介護保険給付の抑制を目的とした介護保険法の改正により、各サービスに大きな影響を受けた。

ヘルパー養成講座の打ち切りによる大幅な収益の減少。

8月よりはじめた通所介護は予定の顧客(月平均20名)を確保できた。

### ・介護関連事業(地域密着型介護サービス)

認知症対応型共同生活介護は1年を通じほぼ満室(27名)状態で推移し、安定した売上を確保。

# 介護関連事業 サービス別売上高

## 在宅介護サービス

(単位:千円)

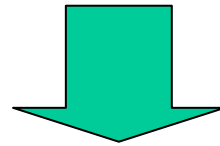
	第50期	第49期	増減
	自 平成17年10月1日 至 平成18年9月30日	自 平成16年10月1日 至 平成17年9月30日	
在宅介護支援	38,939	35,354	3,585
訪問介護	178,535	224,463	45,928
訪問入浴介護	80,194	87,443	7,249
福祉用具貸与	51,422	62,620	11,198
福祉用具販売	12,581	14,884	2,303
研修	7,079	40,532	33,453
通所介護	36,280	1,445	34,835
その他	9,620	5,038	4,582
合計	414,650	471,779	57,129

## 地域密着型介護サービス

	第50期	第49期	増減
	自 平成17年10月1日 至 平成18年9月30日	自 平成16年10月1日 至 平成17年9月30日	
認知症対応型共同生活介護	139,639	105,464	34,175
合計	139,639	105,464	34,175

## 【第50期の反省と対策】 (平成17年10月～平成18年9月)

赤字脱却からなかなか抜け出せない部署の大幅改造



四国営業所の閉鎖

介護関連事業(在宅介護サービス)は現在の保険給付のみでの、黒字化は難しい。よって赤字の穴埋めは通所介護及び地域密着型(グループホーム)で行う。

## 次期(第51期)の業績予想(連結) (平成18年10月～平成19年9月)

(単位:百万円)

	日本フォームサービス(株)			フォービステクノ(株)	連結調整	全社
	メーカー	介護	計			
売上高	2,700	610	3,310	340	340	3,310
経常利益	240	0	240	34	4	270

## 次期(第51期)の目標 (平成18年10月～平成19年9月)

全世界でも渡り合える製品の開発。

新製品の開発専門チームを作り、オンリーワンの製品の開発。

製造部を強化し、将来、製造・設計等の関連する部署を1つにまとめ、判りやすい組織にする。

経営者の若返りの模索。

第51期中に赤字部署は無くす。

## 次期(第51期)ノルマ達成するには！(函物及び機械設備関連事業)

液晶・プラズマはあと2、3年は成長し、現在の3～4倍の需要が見込まれる。故に、取付金具(壁掛・天吊)も年率3～4割の成長があると思われる。また、モニターだけでなく、家庭用の大型テレビの取り付けアームの開発に着手する。

トラカ関連製品を至急、販売体制に組み込む。

個人情報保護の為の製品売り込み及びバージョンアップ。

景気の回復で設備関連の引き合いが相当数見込める。

## 次期(第51期)ノルマ達成するには！(介護関連事業)

現在の介護保険制度の仕組み(特に在宅介護サービス)では、利益が出にくい。

ヘルパー2級に代わるヘルパー基礎研修を平成19年2月(予定)より開講。

深川地区で在宅介護支援センター(在支)を平成19年4月より受託開始。

介護予防運動を目的とした通所介護を今まで以上に充実・拡張  
(お元気クラブ)

江戸川に当社直結の診療所を開設し、平成19年4月より訪問看護開設。

小規模多機能型は徐々に実績が出ており、区の援助(紹介)により今まで以上の需要が見込める。

在宅系より地域密着型のほうに力を置く。

## 次期(第51期)ノルマ達成するには！(フォービステクノ株)

現在の工場規模(2直制)では生産高が限界、行政よりの援助でもっと大きく、本格的な工場への移設(工業団地等)。

間違いなく成長が見込める業種ゆえに積極的な設備投資が必要。

将来の経営者の育成も含め、優秀な人材の確保。

# 組織図【第51期】

